

令和2年度  
第2回さいたま市総合教育会議

議 事 録

1 期 日 令和2年10月22日(木)

2 場 所 さいたま市役所 議会棟2階 第7委員会室

3 開 会 午後4時00分

4 出席者

(1) 構成員

| 職 名   |              | 氏 名    |
|-------|--------------|--------|
| 市 長   |              | 清水 勇人  |
| 教育委員会 | 教育長          | 細田 眞由美 |
|       | 委員(教育長職務代理者) | 大谷 幸男  |
|       | 委 員          | 石田 有世  |
|       | 委 員          | 野上 武利  |
|       | 委 員          | 武田 ちあき |
| 委 員   | 柳田 美幸        |        |

(2) 市長部局

| 職 名    |         |     | 氏 名    |       |
|--------|---------|-----|--------|-------|
| 都市戦略本部 | 本部長     |     | 真々田 和男 |       |
|        | 総合政策監   |     | 岡田 暁人  |       |
|        | 都市経営戦略部 | 副理事 |        | 池田 喜樹 |
|        |         | 副参事 |        | 大竹 芳明 |

(3) 教育委員会事務局

| 職 名      |       |       | 氏 名     |       |
|----------|-------|-------|---------|-------|
| 教育委員会事務局 | 副教育長  |       | 高崎 修    |       |
|          | 管理部   | 部 長   |         | 長畑 哲也 |
|          |       | 教育政策室 | 参事[兼]室長 | 野津 吉宏 |
|          | 学校教育部 | 部 長   |         | 平沼 智  |
|          |       | 指導1課  | 参事[兼]課長 | 山浦 麻紀 |
|          |       | 健康教育課 | 参事[兼]課長 | 小椋 和彦 |
|          |       | 教育研究所 | 参事[兼]所長 | 玉川 徹  |
|          | 生涯学習部 | 部 長   | 竹居 秀子   |       |

5 議事の概要 別紙のとおり

6 閉 会 午後5時15分

## 1 開会

### ○事務局（都市戦略本部総合政策監）

皆様お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから、令和2年度第2回さいたま市総合教育会議を開会いたします。

私は、都市戦略本部、総合政策監の岡田と申します。

本会議の主宰は市長となりますが、形式的な進行につきましては事務局が行うこととされておりますので、私の方で進行を務めさせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

まず、会議に入ります前に、会議の公開の取り扱いにつきましてお諮りします。

現在のところ、報道関係5者から傍聴の申し出をいただいております。

本日の会議は非公開とするような内容はないと考えられますので、会議を公開し傍聴等を許可したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」との声）

### ○事務局（都市戦略本部総合政策監）

ありがとうございます。

御異議ございませんようですので、本日の会議は公開とさせていただきます。

それでは、傍聴人入室のため、しばらくお待ち下さい。

（傍聴人入室）

## 2 市長挨拶

### ○事務局（都市戦略本部総合政策監）

それでは会議の開会にあたりまして、清水市長から御挨拶申し上げます。

### ○清水市長

皆さんこんにちは。さいたま市長の清水勇人でございます。

本日は大変お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

令和2年度の第2回目のさいたま市総合教育会議の開会にあたりまして、一言御挨拶を申し上げたいと思っております。

本会議は、市長部局と、そして教育委員会が相互の連携を図り、より一層民意を反映した

教育行政を推進していくために設置するものでございまして、これまで11回開催をさせていただいて参りました。各回とも大変熱心な御議論をいただき、お互いの意識、また理解が深まったものと思いますし、放課後児童クラブの設置をはじめ、多くの成果も得ることができたと思っております。

本会議においては、市長部局と教育委員会と、十分な意思疎通を図って地域の教育課題、あるべき姿、こういったものを共有しながら、様々な協議調整ができるように進めて参りたいと思っております。御出席の皆様におかれましては、忌憚のない意見交換ができればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、本日の議事でございますが、2点予定をしております。1点目は、「さいたま市教育大綱の改定」について、前回第1回会議で御確認をいただきました改定の方向性に基づいて大綱案を作成いたしましたので、御意見を頂戴したいと思います。

2点目としましては、「with コロナ・after コロナのさいたま市学校教育」について、教育委員会事務局より、現状の課題と取り組みについて御紹介をいただき、皆様と意見交換をさせていただきたいと思っております。

今日も熱心な議論ができればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### ○事務局（都市戦略本部総合政策監）

ありがとうございました。

報道のご関係につきましては、撮影はここまでとさせていただきます。

### 3 議事(1) さいたま市教育大綱の改定について

#### ○事務局（都市戦略本部総合政策監）

それでは、本日の議題に入りたいと存じます。

まず、議事(1)、「さいたま市教育大綱の改定」につきまして、平成27年に策定いたしました現さいたま市教育大綱の期間が満了することに伴い、改定を行うものでございます。

大綱の改定につきまして、資料1により御説明いたします。

#### ○事務局（都市経営戦略部副参事）

教育大綱につきましては、私の方から御説明をさせていただきます。恐れ入りますが着座にて失礼いたします。

それでは、さいたま市教育大綱の改定につきまして御説明をいたします。資料1を御覧ください。

大綱の策定の考え方につきましては、さる6月29日の第1回総合教育会議におきまして、“改定にあたっては、現行の教育大綱の考え方を引き継ぎ、次期総合振興計画（案）の「第

3章 健康・スポーツ」、「第4章 教育」、「第8章 文化」の分野に基づき改定をする”こととなりました。本日は、この改定の方向性、また、第1回総合教育会議での委員各位の御意見等を踏まえ、さいたま市教育大綱（案）を取りまとめましたので御説明いたします。

なお、次期総合振興計画につきましては、先日閉会いたしました9月定例会へ議案を提出し、現在、継続審査となっております。従いまして、計画の議決につきましては今後となりますが、遅滞なく教育大綱の改定を進める必要があることから、議決に先立ち、本日の総合教育会議におきまして、教育委員の皆様の御意見をいただき、成案をとりまとめたいと考えております。

それでは、お手元の「資料1 さいたま市教育大綱（案）」を御覧ください。こちらの資料につきましては、左に教育大綱の改定案、右に現在の教育大綱を対比した資料であります。

2ページを御覧ください。

新たな大綱の構成についてでございます。「1 策定の趣旨」、「2 さいたま市総合振興計画等との関係」、「3 持続可能な開発目標（SDGs）の達成」、「4 対象とする期間」、「5 基本方針」、「6 目指す方向性」により構成をしております。

3ページを御覧ください。

「1 策定の趣旨」につきましては、教育大綱の趣旨と今回の改定の経緯について記載してございます。「2 さいたま市総合振興計画等との関係」につきましては、教育大綱は、本市の市政運営の最も基本的かつ総合的な指針である「総合振興計画」、また、本市の教育振興のための施策の基本的な計画である「さいたま市教育振興基本計画」と整合が図られたものであることを記載してございます。

4ページを御覧ください。

「3 持続可能な開発目標（SDGs）の達成」につきましては、今回の改定にあたりまして新たに記載したものでございます。SDGsにつきましては、国連で採択された“持続可能な開発のための国際目標”であり、地方自治体におきましても、その実現に向けて先導的な取組が求められております。本市におきましても、次期総合振興計画（案）におきまして、市の政策や施策を通じて SDGs の達成に向けた取組を推進することとしております。そのため、教育大綱におきましても SDGs の達成への貢献を掲げ、17の目標のうち、関連するアイコンを「目指す方向性」の各施策に標記することとしております。

「4 対象とする期間」につきましては、次期総合振興計画（案）の計画期間に合わせて、令和3年度から令和12年度までの10年間を対象の期間としてございます。

5ページを御覧ください。

「5 基本方針」につきましては、次期総合振興計画（案）において掲げた“将来都市像”の実現に向けた、“都市づくりの方向性”の中から、本市の教育、学術及び文化の振興に関わる事項を整理し、「基本方針」として記載をしております。さらに、次期総合振興計画（案）の“重点戦略”を「基本方針において重視する視点」として記載をしております。

7ページを御覧ください。

「6 目指す方向性」につきましては、次期総合振興計画（案）に掲げられた、各分野の政策の実現に向けて、取り組む施策の方向性を示す“目指す方向性”及びその具体的な方策を示す“施策”の中から、教育、学術及び文化の振興に関する箇所を整理し、記載してまいります。

例を取って申し上げますと、教育分野といたしましては、「(1) 人生 100 年時代を豊かに生きる「未来を拓くさいたま教育」の推進」を掲げ、「目指す方向性」といたしまして、「全国や指定都市に先駆けた教育施策や本市独自の教育施策を展開し、我が国においてトップクラスの教育を確立してきた本市ならではの特色を生かした魅力ある教育を推進します。」、「施策」として、「① 12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成」等、5つの施策を記載しております。

同様に、子ども・子育ての分野につきましては「(2) 子ども・子育てを支える都市の実現」、健康・スポーツの分野につきましては、「(3) 主体的な健康づくりの推進」と「(4) スポーツを活用した総合的なまちづくりの推進」、文化の分野につきましては、「(5) 生き生きと心豊かに暮らせる文化芸術都市の創造」を掲げ、それぞれ、「目指す方向性」と「施策」を整理し、記載してまいります。以上のところまでが教育大綱（案）についての御説明となります。

続きまして、13 ページを御覧いただけますでしょうか。

こちらの「参考：教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策」につきましては、教育大綱が施策の包括的な表現となっていることから、具体的な施策を例示するとともに、特に市長として本市の強みを生かし、日本一の教育都市の実現を目指すため、現大綱に引き続き作成したものであります。

例示した内容につきましては、1 点目は、市長部局と教育委員会事務局のそれぞれの強みを生かし、連携を深めて推進する施策について、2 点目は、コロナ禍において、連携を必要とする施策を例示いたしました。

例示した施策については、次期総合振興計画（案）及び教育振興基本計画の実施事業を軸として、市長部局と教育委員会事務局、両面からの取組で推進する施策と、それぞれの取組により相乗効果を生む施策を例示しております。

御説明は以上となります。

#### ○事務局（都市戦略本部総合政策監）

説明が終わりました。

ただいまの件につきまして、御意見、御質問等はございますでしょうか。

#### ○細田教育長

それでは、私の方から口火を切らせていただきます。

大変、良く練られた、この度の新教育大綱案だなということが、まず率直な感想でござい

ます。

とりわけ大変うれしく思いましたことは、SDGs 推進の視点がこの度の新教育大綱案に追加されているところでございますが、私は、教育長を拝命してから3年間をかけたして、子どもたちが持続可能な未来社会を担っていく、その未来を担っていく子どもたちを育成するにあたって、このSDGsの観点がほとんどすべての教育活動の中に実は盛り込まれているのだということを経験委員会内でも随分議論しました。

そこで、2020年度重点目標ということで、昨年度から、しっかり検討立てて取り組んでいこうという話をしておりまして、重点目標の中に“ESD（注：Education for Sustainable Development「持続可能な開発のための教育」）からSDGsに”という大きな視点を入れました。まずはこれまでの教育活動の中で、17のゴールと169のターゲットがいろいろなところに教育活動の中にちりばめられていたということを経験マッピングで168校全校において洗い出してみました。すると、全ての学校から、今までの教育活動の中で、子どもたちはこの着眼点で教育活動を受けたり、自分たちで探求したりしてきたということがわかったという声が上がりました。

そうしますと、今度は、そのことを踏まえて行動に移そうという視点に子どもたち自身が一歩踏み込むことができたということが、昨年から本年度にかけて明確になってきたところで、この新しい教育大綱の中に明確に盛り込んでいただいたということは非常にうれしくて、まずその喜びをここで分かちあいたいと思ひまして、口火を切らせていただきました。

大変、示唆に富んだ教育大綱をお考えいただいていると思っております。ありがとうございます。

### ○大谷教育長職務代理者

私も全く教育長がおっしゃったことと同じですが、非常によくできているなという第一印象でございます。

特に総合振興計画との整合性というところが一番大事なのかなと私としては、当然のことながら思うわけでありませうけれども、「5基本方針」ですか、前回の教育大綱にはなかった、例えば子どもたちが未来を拓く日本一の教育都市の創造であって、これがきちんと教育大綱にうたわれているということ、また、「目指す方向性」ということで、先ほど御説明ございましたけれども、(1)の“人生100年時代を豊かに”というところから、(5)まで、この辺のところも総合振興計画ときちんと整合がとれているということ、私も確認をさせていただきますで大変良かったと思っております。

次に、最後のページの「教育、学術及び文化の振興を図るための重点的に講ずる施策」のところですが、withコロナ時代への対応ということはあるのだけれども、afterコロナはどうなのだろうかということ。

それと、もう一つ、教育委員会ではいつもこちらにいらっしゃる野上委員を中心にいろいろと議論している主権者教育という観点なのですが、これは指導の場で私も平日頃考えて

いることですが、やはり子どもたちに政治教育ではない政治的教養をきちんと身につけさせるということ、そして、健全な批判力というものを子どもたちに育成するということは極めて大事なことであります。言うなれば政治的教養というものを教育の場で、教職員の皆さんにしっかりやっていただかなければいけない。それとともに言うなれば体験的といえましょうか、経験的といえますか、模擬選挙、模擬投票であるとか、あるいは市議会の見学、いわゆる議会制民主主義というものがこういうものなのだという体験的な学習も私は重要と思っているわけです。そうしたときに、やはり議会事務局だとか、あるいは選挙管理委員会とか、いろいろな方と連携しながら、より充実した主権者教育というものをしていただければ大変ありがたい、サポートいただければありがたいというのが私の感想でございます。

### ○武田委員

今、大谷先生がおっしゃったことで、ちょっと具体的な話で申し上げたいと思うのですが、

資料1の5ページのところ「基本方針の重視する視点」として、「子どもたちの未来を拓く日本一の教育都市の創造」ということで、わかりやすく、一番大事なポイントを掲げてくださっているわけですが、それは結局、先ほど大谷先生がおっしゃいました主権者教育に関わっていくことだろうと思います。

これにつきましては、前回の書面での総合教育会議の私の意見として、投票箱その物が本物であること以上に、変えていこうという社会が本物であることの方が、やはり子どもたちにはインパクトがあるというか、それでこそ必要なことだとわかるのではないかという話で、投票箱に入れる前のプロセスに今後重点を置いたらいかがか、というようなことを申し上げさせていただいたところです。

実際に市長部局の子ども未来局では、主要事業ということで子どもがつくるまち「ミニ〇〇区」ということでもう何年も実施していらっしゃる、すでにある程度レガシーがあって、それを皆でシェアする仕組みをちゃんと作っていらっしゃるということで、私も社会福祉審議会の方でもっと主権者教育に結びつけていくことはできないかと申し上げたのですが、今、NPOを中心にこの事業をしてくださっていて、今コロナでちょっと縮小されているけれども、今後そういうふうこれを発展させていくことはお考えくださるとお答えをいただいております。

そのように自分たちで作る、子どもたちが自分で未来を拓くというのは、そういう感覚を持たせるように大人が導いて行くということも、主権者教育、大人がする教育として、必要な視点ではないかと思うのですね。

今、申し上げた事業の中でも、その子どもがつくるまち「ミニ〇〇区」の「ミニ〇〇区」は「ミニ」かもしれないけれど、実現するかもしれないわけで、例えば、今回の大綱の基になっている総合振興計画基本計画の第4部で各区の特性と将来像が掲げられているわけで



すけれども、それを子どもたちのいろいろな提案とか夢とすり合わせていくことが、実際大人になった時に本当にそういうまちになっていくというような実感を子どもが持てるように、あるいはそういうまちに自分でしていこうという政治の感覚を、子どもたちに向けるようにできるのではないかと思います。

ですので、教育委員会と市長部局とで同じテーマを共有することで、今行われているそれぞれの活動をもっとこうまとめていって、さらに、例えばその選挙管理委員会がしてくださっているその投票箱の活動を更に意義がある実感のこもったものにしていくというように発展させていくこともできるのではないかと思います。

そういったことも今後できていけたらいいなと思います。

### ○野上委員

既にご覧になられた方もおられると思いますが、先週 10 月 17 日の日本経済新聞に「住みたい街ランキング」の記事が掲載され、大宮と浦和が第三位にノミネートされました。記事の中に気になるコメントがありました。記事によれば気になるコメントは新型コロナが猛威を振るう最も深刻な状況にあった 7 月に寄せられたもので大宮・浦和を選択したのは「文教都市で治安もよく、子育てに適している」からとのことでした。

これまで、この手の調査では時代の先端を行く流行に敏感な恵比寿や中目黒、そして開発が進む品川などがノミネートされることが多かったのですが、この厳しい環境の中で住みたい街に本市が選ばれたことは、日本人の真摯さ且つ健全性に触れた思いがして深い感銘を覚えています。こうした高い評価は一夜にして得られたものではありません。市を挙げての人材育成への継続した取り組みが功を奏したものであることは言うまでもありません。AI、IoT や DX、SDGs といわゆる ICT、そして国や他の都市に先駆けての英語教育の導入とその高い実績が「子育てするならさいたま市」との高い評価を得、住みたい街として大宮・浦和が選ばれたのです。

そこで問題となるのは未だ収束を見ない With コロナを乗り切ることも極めて重要なことですが、先進教育都市の評価をいただいている本市が after・コロナにおいて、どのような未来像を描いているかが重要になりますので、諸々のテーマがあると思いますが従来の理数教育に加え、今後は芸術や文化などリベラルアーツ教育に注力し、ものごとを多面的に捉える力を醸成する教育に市を挙げて取り組むことが重要であると思っております。

### ○石田委員

要望のようになりますが。

さいたま市 130 万人以上の人口の都市で、子育て本当に皆さん大変で、市長御存じの通り認可保育園、小規模保育園、毎年何か所もできて、私も何か所も頼まれて、園医をやっているのですけれど、まだ足りないところがある。

私が行っているところは空いているところもあるので、うまく配分したほうが良いとい

うことも思いますが、来年またもう1件できて、また頼まれたのですけれど、すごい勢いで子どもさんが増えています。子どもさんは増えているのですけれど、お産する場所が少ないのです、病棟が少ないのですよ。で、困っている産婦人科が結構多い。それで、もうこれからますます増えると思うので、もう一度市長にお願いをしたい。

この最後の12ページ、盆栽美術館、漫画会館、人形博物館、鉄道もあります。美術館について、よく言われるのですが、さいたま市に目玉の美術館を作りたい。ぜひこれをお願いしたい。私の意見といたしますか、要望みたいなかたちで、すみません。

## ○清水市長

色々皆様のお話を聞かせていただきましたが、今回の教育大綱案の全体としては、教育委員会だけでなく、市長部局だけでなく、うまく両方が力を合わせていかないとできないような内容として作成しており、総合教育会議のあり方とまさにセットになっているという意味でも、バランスがいい形になっていると思います。

その中で、教育委員会としてやっていただきたいことであったり、あるいは市長部局がやらなければならないことであったり、皆さんからいろいろお話をいただいて、私も、まず総合振興計画も含めて、コロナということと、もう一つはやはりSDGsということが、今回の長期的な計画の中でさいたま市にとって大変重要な要素の一つであると考えています。

もちろん、これまでもそれぞれのゴールや目的は、まさにSDGsと同じ方向性で市の行政も教育委員会もやってきたという自負を私は持っていて、それがうまくバランスを取りながらできているということについて、大綱にわかりやすく表現してあります。

主権者教育の話が出ました。これはもちろん教育委員会としてやっていただきたいと、もう一つは、市長部局として協力をしていくと、あるいは選挙管理委員会ということもあろうかと思いますが、武田委員からお話がありました「ミニ〇〇区」、小学生を対象に各区で行っていますが、あれもまさに中学校版であったり、高校版みたいなものも必要であると感じています。

世の中で起こっていることが自分の生活とどのようにリンクしているのだとか、自分が生きていく、あるいは職業として何か担っていくといくことがどう社会とリンクし、まちや国や社会と繋がっていいものにしていくことは、一人ひとりの力によるものなのだとすることを理解してもらうことが大変重要なことだと思います。

選挙で投票するというだけだとそれだけで終わってしまうような気がしますので、その中で主体的にどのように関わっていくのか、それは権利という部分もあるし、義務という部分もあるし、そういったものを理解しながら、社会がどのように動いてきてというようなことも含めて理解をして、その中で、自分はどういう役割を果たしていくのだということを子どもたちがしっかりと気付いていくという、そういうプロセスもすごく大切なことだと思いますので、そういうことも意識しながら実施計画の中で取組としてやっていくことが重要だと、そんな、感情を持ちました。

それから、今、保育所がいっぱいだという話がありましたが、今年は3,066人の定員を増やす計画で、過去最大の1.5倍ぐらい増やしていますが、それだけ若い世代、子どものいる世帯から選んでいただいているということは、さいたま市にとっては嬉しいことで、ありがたいことでもありますから、そういった皆さんが住みやすい環境を作るというのは、私たちにとって重要なことであると認識しています。

また、ICT等の御意見もありましたが、さいたま市もGIGAスクール構想を含めて、教育委員会、あるいは全体の教育ということになると、義務教育から、高等教育、生涯学習ということまで、幅広くあるわけですが、そういった幅広い中での計画ということだろうと思いますけれども、私はやはり、その中でいかに生きていくことの大切さであったり、その意味であったり、そういったものを一人ひとりが感じ、そして、夢や希望を持って生きていける子どもたち、あるいは大人たちを育てていく、そういう環境を作っていくということは大変重要なことだと思っています。

その中で、一つはこのコロナの問題、あるいは、コロナが起こる前からもうデジタル化、ICT化、あるいはSociety 5.0だとか、いろいろなことが言われてきて、この流れはものすごい勢いで進んでいくし、進めていかなければいけない。もう一方で、やはり人間が本来持っている五感をしっかり育て、感覚を豊かにしながら、物事を考えていく、捉えていく、あるいは、その中で自分の生き方であったり、学びであったり、そういったものを判断して決めていく力をぜひこの義務教育の中で作っていただきたいと思っています。その中で、デジタル化によって、五感を通じてというところが、少し弱くなってしまっているところも感じていますので、そのバランスをしっかり取っていただきたいながらの教育ということ、それが教育委員会のプログラムだけでは補えないとすれば、私たち市長部局で、教育委員会ではできない部分をどうサポートしてそういった機会を作っていくかということは、今後の役割分担の中で色々と協力していく必要があると感じたところでございます。

後は、7ページのところに、本市ならではの特色を活かした魅力ある教育を推進しますと書いてありますが、そういう意味では本当にたくさんの特徴があると思っています。グローバル教育であったり、地域の皆さんが一緒になったコミュニティスクール、地域との関係であったり、給食であったり、いろいろな特徴がたくさんありますので、そういったものを更に活かしていただいて魅力ある教育を作っていきたいと思っています。

あと一つ、課題として、勉強の方で言うと比較的大変高い数値になっていて、「学校に行くのが楽しい」と答える割合も高いし、いいところがあると思っていますが、少し体力のところ、多分差があるのだと思いますけれど、体力を持っている子どもたちとそうでない子どもたちの差があって、平均すると、やや低めにあるという感じがしております。そういったところもやはり、バランスよくしていく必要があると思っていますので、これもまた教育委員会と市長部局が役割分担をしながら協力していく、そういったことを考えております。

○事務局（都市戦略本部総合政策監）

その他ございますでしょうか。

貴重な御意見をいただきましてありがとうございます。

教育大綱の成案をまとめさせていただきましても、その際に参考とさせていただきたいと思っております。

4 議事(2) with コロナ・after コロナのさいたま市学校教育

○事務局（都市戦略本部総合政策監）

続きまして、議事の（2）、「with コロナ・after コロナのさいたま市学校教育」につきまして、教育委員会の方から説明をお願いいたします。

○教育政策室長

それでは失礼いたします。

議事の二つ目、「with コロナ・after コロナのさいたま市学校教育」について、資料2に基づきまして説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

さいたま市教育委員会では、コロナ禍以前から資料上段、左手にお示しいたしました学校教育が直面する課題に対して、対応を進めて参りました。

特に、学校現場における「ICT を活用した学びの改革」においては、「これからの学校教育は学校での学びと ICT を活用した自律的な個別最適化された学びの融合により、日々の教育活動が実践される」、この予測のもと、児童生徒一人1台の情報端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する、先ほど話題に出ておりました「GIGA スクール構想」の2023年度までの完成を目指しておりました。ところが、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大は、緊急事態宣言の発令とともに、約3ヶ月ほどの長期にわたって学校の臨時休業を余儀なくされるという未曾有の事態を引き起こしました。

その状況の中、教育委員会では、子どもたちの学習機会の保障や心のケアのため、デジタルコンテンツ、「スタディエッセンス」や「心のサプリ」を作成するなど、ICTを活用して今できることに全力を尽くして参りました。

国の方においても、「GIGA スクール構想」がご案内の通り今年度2020年度内完成前倒しになったところなどからも、教育現場におけるICT環境の緊急的な整備や、感染症防止対策を講じながらの学校教育活動の実施など、新たな課題も浮き彫りとなっております。

いまだ新型コロナウイルスの収束の兆しが見えないことから、第2波、第3波の到来も含めまして、どのような状況下においても、子どもたちの学びを確実に保障するための方策や、ニューノーマルにおける新たな学びのあり方が今まさに求められているというふうに思います。そして、私たちは「日本一の教育都市」を目指して、本市の強みであるさいたま市ら

しい質の高い教育活動を展開していくという目標をも実現していかなければならないと感じております。

そこで、教育委員会では、学校教育におけるデジタルトランスフォーメーションの加速化を図るべく、「さいたま市 GIGA スクール構想推進本部会」を新たに立ち上げまして、授業や校務のデジタル化、オンライン化を進めるなど、資料上段中央にお示しいたしました新たな時代に対応した取り組みを進めて参りたいと考えております。

これによりまして、すべての子どもたちの可能性を引き出すことができるよう、資料上段、右手にございます、「目指すべき学び」である、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、個別最適な学びと社会とつながる協働的な学び、いわゆる「令和の日本型学校教育」の構築を目指して参りたいと考えております。

それではその内容に基づきまして資料 1 枚目の「ICT を活用した学びの改革」について教育研究所より、資料 2 枚目、「教育活動における感染防止対策等」について指導 1 課より説明をさせていただきます。

## ○教育研究所参事

教育研究所でございます。よろしくお願ひいたします。着座にて失礼いたします。

GIGA スクール構想を進めるにあたり「ICT を活用した学びの改革」に教育委員会も学校も、そして指導主事も先生方も本気で取り組んでいかなければなりません。

Society 5.0 時代の到来を見据え、現状と課題を踏まえ、これからの教育・学校・教師の在り方について総合的に検討していかなければなりません。中段より上には、「目指すところ」を記しました。左から国の「GIGA スクール構想の目的」、「学習指導要領からの児童生徒に付けたい力」、「さいたま市の目指す人間像」となります。これらを目指すために、GIGA スクール構想として、支えになるものが「インフラ・セキュリティ」と考えております。

下支えがないと GIGA スクールにおける子どもたちの学びには結びつきません。まず、インフラ整備を確実に行ってまいります。次に、児童生徒に教える教師の指導力、スキルアップのための研修を充実させてまいります。「学びの変革」を考えますと、今までの一斉型の授業だけというところからの脱却が必要となり、意識改革、マインドセットが必要であると考えております。

研修においては ICT を活用した授業力、ICT リテラシーなどスキルアップが求められ、教師の求められる活用レベル等も今後提示をしていきながら、先生方の力を高めていきたいと考えております。体系的な研修体制の構築といたしまして、ICT に強い教員がエバンジェリスト、伝道者となって、それぞれの学校にその裾野を広げていく、そのようにして ICT を活用した授業の研修をもとに日々の授業をしていく。その授業と研修をスパイラルに Anticipation, Action, Reflection といった AAR、「見通し」、「行動」、「振り返り」を繰り返しながら、学校組織として、また、教師個人といたしましても自走していく仕組ができた

らと考えているところでございます。

右側には、学習・授業についての「学びのパラダイムシフト」として、学びのステップ1～3までについて概略的なところを示しました。学習コンテンツの収集、教材の収集も含め、どの学年でどの授業でどのようなコンテンツが使用できるのかといった活用事例や、それらをわかりやすく使いやすくするためのプラットフォームが ICT 活用の第一歩になると考えています。

また、右側最下段には「データサイエンス」と示してあります。GIGA スクール構想による ICT を活用した学びが進めば進むほどデータは蓄積され、それらを生かした学習や授業につながると考えます。「データサイエンス」のビッグデータ活用は今後進めていかなければならないこととございますけれども、スタディログといった学習履歴などのデータ活用は個別最適化された学習にすぐにつながるものであります。また、「データサイエンス」の先生方が使う教材等のデータもきちっと蓄積させていただいて、すぐにも学習に使える、授業に使えるというようなことを考えているところでございます。

本日示させていただいた全体図をもとに、「with コロナ・after コロナのさいたま市学校教育」において、さいたま市 GIGA スクール構想を進めて参りたいと考えております。

その中で皆様からの御意見等をいただきながらブラッシュアップしてまいりたいと考えてございます。以上となります。

## ○指導 1 課参事

続きまして、指導 1 課でございます。よろしくお願いたします。着座にて失礼いたします。

2 ページ目、学校の教育活動の様子について御説明いたします。

市立各学校では、教育委員会が作成いたしました感染症拡大防止のためのマニュアル等に基づき、授業や休み時間、給食の時間等、学校生活の各場面において 3 密を回避し、子どもたちが安心・安全に生活が送れるよう工夫を凝らしております。

部活動につきましても工夫し、特に 10 月の新人体育大会におきましては、中学校体育連盟と協議の上、無観客、開会式・閉会式の中止、大声での応援やハイタッチの禁止などの措置を講じながらも生徒の活気があふれる中実施することができました。また、運動会や体育祭などの学校行事につきましても開催方法等を工夫しながら各学校で実施しております。

そして 1、2 学期は実施を見合わせておりました修学旅行や校外学習につきましても、10 月 2 日付け文部科学省からの通知を受け、3 学期から各学校で実施をする方向で現在工夫を凝らしながら検討を始めているところでございます。

以上のように、今後も引き続き感染症防止対策に万全を期したうえで、生徒の健康、安全を最優先にして教育活動を実施してまいりたいと考えています。以上でございます。

## ○事務局（都市戦略本部総合政策監）

ありがとうございました。説明が終わりました。

ただいま ICT の関係と感染防止策を中心に説明をいただきましたけれども、その他の話も含めまして、「with コロナ・after コロナのさいたま市学校教育」について、御意見を願います。

## ○細田教育長

一言補足をさせていただきたいと思います。

先ほどの議事(1)で、市長からお話をいただきました。ICT のインフラが整備されて、デジタル、IT を中心とした学習がどんどん進む中で、私たちが忘れてはいけないことというお話をいただいて、いつもそれを念頭に置きながら教育活動全体を見ております。

私は、以前より GIGA スクールを具体的にどのように学校に落とし込んでいくかということについて、校長先生方からいろいろなご意見を伺いたいと思っていました。いつも私が校長先生方にお話をするときは、校長会などで168人に一斉にお話をすることになりますので、一度膝を交えて議論したいと考えておりました。そこで、「スクールミーティング」と名付けまして、まさに車座で区ごとに10回に分けて意見交換会を持ちました。

その議論は大変実り多いものでした。私の方から、大きな方向性をお話しし、その後、3～4人で課題になることを話し合っていて全体で議論する方法を取りました。すると、「ICT を活用して個別最適な学習を目指していくことに異論はないが、リアルな体験もとても大切である。」「発達段階によっては、デジタルを横において、例えば小学校1年生だったらまず自分の手で文字を書く際の筆圧だったり、手の動かし方だったりを丁寧に教えたい。」という声があがりました。

その通りであると思います。私たちが絶対忘れてはいけないということは、対面による授業やリアルな体験と、デジタルを使った教育をどのようにしてベストミックスにしていくかです。そこを私たちみんなでスクールミーティングでずっと議論しました。こういう話ができるということは、校長先生方すばらしいなと思っています。

ですから、先ほどの市長のお話、まさに我々もそれが大変重要なことだと考えているという事を申し添えたいと思います。

それから、ベストミックスとはと考えた時に、デジタルを使った教育が非常に効果的なのは、知識、理解を子どもたちに定着させる際であると感じています。私が授業をやっていた時に、どの視点で授業を創っていくかということもいつも考えていました。

やはりアベレージの学力よりちょっと上ぐらいのところを目指していくのですが、面白い授業が上位の子たちには届けられなかったり、理解できない子どもたちもいたりしました。ところが、このデジタルを使いますと、本当に個別最適化した学習ができ、そしてそれを定着させることができる。効率よく。そうすると、授業の時間の中に、もっともっとリアルな体験だったり、ディスカッションだったり、そういうものを入れていくことができ

るということに気づく。すると、非常に教育活動が豊かになる。我々は、GIGA スクール構想について考えながらこのことに到達しているところです。

まさにそのことについて、ICT を活用した GIGA スクール構想の中で、我々が見せていきたいと思っております。

## ○清水市長

色々と気を配っていただいているということで安心をしているところですが、いくつかお話したいことがございます。

一つは、それぞれ一人ひとりの個別最適化をする、知識の理解・集約については、ものすごい効果があると、私もモデル事業を昨年から見せていただいて感じました。

ただ、その活用の仕方をどのようにその年代に合わせてやっていけるかということが大変重要で、そこに体験ということであったり、もう一つ重要なのは情報をどうとらえるかということであったり、要するに、今の子どもたち、今の時代は、私たちが子どものころに得ていた情報のおそらく何百倍ではすまないぐらいの情報、まさにネットというものを使うと子ども向けでない情報も含めて、たくさんの情報を得ることが可能になります。これはフィルターをかけたとしても色々な種類の情報が与えられ、得ることができるようになるということだと思っております。

それをどのように取舍選択をして使っていくのかということ、単にコンピューターの使い方、勉強での運用の仕方だけではなくて、この情報は正しいのか正しくないのか、なぜこういう情報になってくるのかということも含め、子どもたちが色々考えて、理解した上で活用していくといった能力も学年とか発達段階に応じて、定期的につきり伝えていかなければならない。一歩間違えると、ものすごくたくさんの情報にさらされてしまって、必ずしも糧にならない可能性も出てくるのではないかとこの危惧があります。

ですから、そういった部分もぜひカリキュラムの中にしっかりと取り込んでいただいて、情報とは何かとかメディアをどう捉えていくのかとか、その情報がどういう立場のどういう人たちが発信することについて、どう捉えたらいいのかということもあわせて学んでいくことも、単純に知識を増やすということだけではなくて、メディアリテラシー教育ということなのではないでしょうか、それぞれの学年や段階に合わせて対応していただくことが必要だと思っております。

それから、リアルとデジタル等々を融合させながらということですが、やはり教育の場合はもちろん効率化をすることも大切ですが、効率化をしない、あるいは失敗をすることが次の力になっていくということは、人の成長にとってはすごく重要なことではないかと思うのですよね。色々な失敗をしたりつまづいたり、それをどう乗り越えて、どんなことをするとどうなるのかということ、やはりそのような能力を掻き立てていくためには、色々な経験が必要になる部分もあるので、全ての人が正しい道に真っすぐ行くわけではなくて、人生はやはり色々なことがあって、その課題にぶつかったときにどのように捉えて、失敗し



でもまた立ち上がって悩んでいけるような、メンタリティであったり、捉え方であったり、そういった部分も何らかの形で残していく。

効率性とか、まっすぐ正しいものだけパッと来るってということだけではなくて、それを探っていくために色々とぶつかったり失敗をしたりということが大切な部分でもあるので、そういった要素を教育の方で残していただけて、それをうまく合わせながら子どもたちを育てていくということはすごく重要な要素だと思っていますので、非常に抽象的な議論ではありますが、GIGA スクールによって大きく転換する時期なので、そこをぜひ踏まえて、さいたま市らしいベストミックスの教育の仕組みと、あり方を作り上げていただきたいと思います。

### ○武田委員

今教育長と市長がおっしゃったことにちょっと関連することなのですけども、まずこの資料の1ページ目のこのグランドデザインと、2ページ目のマニュアルが、もう本当にどちらもこのコロナの時代においてすべきことできることを実に具体的にきめ細かくまとめてくださっているということに、まず敬意と謝意を表したいと思います。本当にありがとうございます。

これはもう、どちらもこれからのコロナとの長丁場に取り組んでいく現場の先生方にきっと大いに役に立つ物であろうと思う一方で、すでにこのコロナに伴うその様々な対応や変化に疲弊している先生方にとっては、パッと見てやるのがまた増えるのかなという印象を持ってしまわないかなという懸念が、老婆心ながら拭えないところがございます。

また、ここに書かれていることは先生方だけではなくて、とりわけ専門的な新しい用語に必ずしも馴染んでいない保護者の方々にも理解していただいてこそ、学校と家庭とで共に新しい教育を協力しながら作っていくということが今後あるのではないかなと思うのですね。その意味でも、ここに書かれているようなことはつまりは何に集約するのかということについて、先生方やその保護者の方々の両方に、よりクリアにわかっているためには、さらにシンプルにポイントを思い切り絞った形でスローガンか何かで提示するっていうのもいいのではないかなと思うのです。

例えばこれをまず、子どもの学びという視点で考えますと、今回コロナでわかったことは、一つは環境を消毒することにはもう限界があって、世の中からコロナを無くすことはできない、だから感染を防ぐにはとにかく自分の行動が重要になるということだと思います。要するに、周りのせいにしていても始まらないので、自分こそが自分と周りの命を守ると、社会に生きる人間として、個人の責任と使命というのをより強く自覚する機会になったのではないかと。それは衛生教育、健康教育だけではなくて、シティズンシップ教育といいますか主権者教育とか国際教育の基礎なのではないかなと思うのですね。

そもそもこの自分と相入れない存在とともに生きるために話し合うというのが民主主義社会の根本だったわけであって、子どもがこの姿勢を身につけるといことは、社会人とし

ての基本を培うことになるのかなと思います。

そうした見方をすると、例えば市内の小学校で、友達を大切にという標語のあるところがあるのですけれども、その言い方で言うと、この言葉も単なる思いやりとか優しさとかではなく、これはもう世の中社会のルールの本根に関わる、より深い広い意味を持つ言葉として、子どもに新しく見えてくるのではないかと。

それはやはり公民教育、道徳教育の両方に繋がるものだろうと思うのですね。またもう一つ教員の教え方という先ほどお話があった視点で考えますと、このコロナ禍で要請された教育方法の変化については、やはり ICT 教育の必要だけじゃなくて、ICT 教育のより深い本質が問われているのかなと思います。それはテクノロジーでできること以上に、人間としても教員こそができることは見直して考えていこうということだと思うのです。

例えば、私の教え子で市内の中学校で英語を教えている教員がいるのですけれども、彼は英語の ICT 教育、ICT 授業の達人で、先生方を指導して歩いたり、あるいは英語教育関係の雑誌に記事を執筆するとか全国レベルで活躍している人なのですけれども、その彼が言うには、ICT 教育、授業で大切なことは、ICT を使わなくても ICT を使っているときと同じことが教えられる能力だということなのです。

つまり ICT が使えない時にも、それと同じ目的を果たす活動をすぐ展開できるというのはそういう授業力で、つまりその ICT に使われるのではなく、また、ICT を使うこと自体に満足するのではなく、授業の最終的な目標をきちんと押さえて、子どもたちにこういう力をつけさせたいということを踏まえた上で、それをしっかり把握した上で ICT を利用するという、そういう教育の姿勢なり、指導者としての自信だというふうに彼は言うわけです。実際この先生の授業を見ていますと、やはり子どもたちは ICT についていくのではなくて教員についていくのだなということをしごく実感します。それでこそ ICT が生きるということだと思うのです。

まとめますと、子どもは一人ひとりが責任のある行動をとろうと、それから先生はそのテクノロジーと人間性を両方バランスよくフル活用するという、シンプルな目標というのが子どもも大人も皆がわかりやすい形になるのかなと、個人的に思うのです。

そのようにシンプルにすると、子どもも親も、先生方だけでなく、皆が共有しやすい形になることで、それぞれに、私も考えていいのだなということ、その実現するための工夫とか知恵というのも出しやすくなるのかなと思います。

ですので、コロナの時代の教育をどうするかということでは、もちろん行政が引っ張っていくという必要性があるわけで、そのために私たちが一生懸命考えているわけですが、ただ行政が答えを出しきってしまうのではなくて、やはり現場に声かけて、親に問いかけて、そして子どもに問いかけて、学校や家庭からもその色々な経験や知恵を提供してもらって、一緒にさいたま市教育の道を考えていくという、そういう開かれた姿勢を何らかの形で今後もっと打ち出していければ、お互いへのその信頼と尊重に基づいているはずのコミュニティスクールというものも新しい制度として、実はまさにコロナの時代にうってつけ

のものとして、本格的に実効性を発揮するのではないかと期待しております。

以上です。

### ○野上委員

After コロナにおけるさいたま市教育についてですが、今回表面化したデジタル化の流れは加速することはあれ、後退することは考えられません。

そこで子供たち一人ひとりへの端末の配備、そして機器整備などハード面の環境整備は急がねばなりません。ここにきて国も本腰を入れておりますので環境整備は一段と進捗すると思います。問題はこの整備される ICT 環境を活用して「どのような学びをこども達に提供・届けられるか」と云ったソフト面の課題が After コロナの最も重要な教育的課題だと思っています。

幸いにして本市では今回のコロナ禍においても教育界はもとより市を挙げての万全な対応で ICT を活用した教育が円滑に行われたところであります。そこで次なる課題は PISA の調査でも「答えの無い課題に対する対応力」の不足が指摘されていますので物事を多面的・多角的に捉えるいわゆる「読解力」の強化のため、先ほども触れましたが、従来重点を置いてきた理数教育に加え芸術や文化・哲学と云ったリベラルアーツ的な分野を加味した STEAM 教育を積極的に展開することで、これからの厳しい時代を生き抜くに足る自立心旺盛な子供を育成し、日本一の教育都市を目指すことが肝要なのではと思料しています。

### ○事務局（都市戦略本部総合政策監）

ありがとうございます。その他、ございますでしょうか。

### ○清水市長

「with コロナ・after コロナのさいたま市学校教育」の中では、子どもたちに教える、あるいは学習してもらおうということだけではなくて、表裏一体になっているのが教師の働き方改革で、これはセットというかリンクしているのだらうと思うのです。

ある意味では、より効率化をした方がいいのは、教員の皆さんのやらなければいけない事務作業のところ、もちろん色々なシステムを導入してやられるという検討をされていると思いますが、そこは効率化をするということと、あとはまた少しリンクしますけれど、部活動の教え方、あり方ということも GIGA スクールを含めて、ICT を活用していく部分と、あとは、やはり難しいのは人と人とのコミュニケーション力で、もちろん ICT を活用してできる部分もあるし、でも、そこだけではできない部分とのバランスになると思うのですけども、これをどううまく組み合わせながらということだと思っております。

部活動などは強いチームを見てももちろん色々なやり方ありますけれど、やはり指導者の生徒に対する感化力はものすごく大きく影響していて、なぜ同じ子どもなのにこの人が教えるとこんなに力を発揮するのかということころは、まさに教育のマジックというか指導

のマジックみたいなどころがあって、コミュニケーション力なのでしょうか、あるいはコーチングになるのでしょうか、そういった教育や指導をうまくミックスをする。また、教員としての素養ということでも、ICTの使い方を学ぶということだけではなく、そういう部分を合わせて行っていくということが必要になるのかなど。やはりデジタル化が進めば進むほどももちろん遠くにいる人と話すことはできるのですが、もう一方での孤立感だとか、何か人と繋がっていないという感じがするのです。

今、コロナの影響もありますが、人と会えなくて、電話やメールではやっているのかもしれないけれど、それだけではちょっと物足りなさがあって、少し不安感が高まる部分が出てきているような気がします。人と会うコミュニケーションがやはりベースにあると思うので、そのこのところのバランスが必要であるというふうに思います。

いずれにしても、やり方がひとつは大きく変わっていく、変わっていかざるをえないという状況の中で、そういった部分もあわせて考えていただきたいというのが一つと、後は学校と家庭、家庭学習をどのように活用していくのか、だからといって家庭のところまで全部コントロールをしてよいのかどうかということも含めて、気になるという感じがします。

いずれにせよ、これがベストだということを見つけ出すというのはこれからなのだろうと思いますけれど、with コロナ・after コロナ時代のデジタル化により、孤立感だとか、人と人との繋がりが薄くなる可能性がある中で、友達同士の関係もそうだと思います。学校に行ってもあまりしゃべってはいけなとか、給食でもうあまりしゃべっちゃいけませんよって寂しいことですよ、それをどのように心と心をつなぎ合わせていくのかという、アナログ的なところも、ぜひ気をつけていただきながら取り組んでいただければと思います。

#### ○事務局（都市戦略本部総合政策監）

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは議事は以上となります。

たくさんの御意見をいただきましたので、今後、事業の推進あるいは市長部局と教育委員会の連携にしっかり活かして参りたいと考えております。

なお、本会議の議事録につきましては、さいたま市ホームページに掲載する予定となっております。事前に構成員の皆様に御確認をお願いすることとなりますので、その際は御協力をお願いいたします。

その他、本日の会議全体を含めまして、皆様から何かございますでしょうか。

### 5 閉会

#### ○事務局（都市戦略本部総合政策監）

それでは、会議の主宰であります清水市長から本日の会議の総括をお願いします。

## ○清水市長

皆様、大変お疲れ様でした。

毎回たくさんの御意見がでて熱い議論になる総合教育会議ではありますが、今日も忌憚のない意見がでてきて大変嬉しく思っております。また、「さいたま市教育大綱の改定」、そして、「with コロナ・after コロナのさいたま市学校教育」ということで大変有意義な意見交換ができたのではないかと思います。

教育大綱については、継続審査となっております次期総合振興計画の議決を待つということになりますので、議会で議決をいただいた上で、確定をして公表させていただきたいと思っております。

また、9月下旬以降、学校現場では、先ほども with コロナの時代でいろいろな対応をされているというお話が出ました。本当に通常の教育活動以外にたくさんの仕事を抱えて、子どもたちに向き合っていただきながら教育をいただいている教育委員会そして各学校の先生方に、改めて感謝と御礼を申し上げたいと思います。

その中で、感染防止対策をしっかりと徹底をしながら、子どもたちに良い学びの場、教育の場を提供し続けていただきたいということをお願い申し上げて総括とさせていただきます。

## ○事務局（都市戦略本部総合政策監）

それでは、以上をもちまして令和2年度第2回さいたま市総合教育会議を閉会いたします。

本日はありがとうございました。

(了)